

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 共友会	代表者	岩尾 貢	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で暮らし続けることを大切に「ケアの流れを変える支援」「人生の最後まで寄り添う支援」「共生型サービスの実施」を行っている。 生きがいの持てる活動づくりとして「就労等の日中活動支援」「若年性認知症の方への支援」「高齢障害者支援」を実施している。 相談支援の拠点づくりとして「地域の方が気軽に立ち寄れる場」「誰もが相談できる場」を作っている。
事業所名	小規模多機能ホーム やたの	管理者	佐野 正人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	4	1	5	1	1	2	0	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<p>①本人の気持ちや意見を確認する機会を作り、ライフサポートプランの目標に反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラン変更、作成前に時間をもち、本人の意向や「～したい」ことを毎回、確認する。 ・普段の記録の目的やポイントをスタッフ間で共有し、ライフサポートプランと連動できている体制を整える。 <p>②家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を交えてのカンファレンスの開催 ・家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。 	<p>①利用者本人の支援を行っている場面で、本人の話しや意向をしっかり聴く姿勢を持ち、利用者個々の「～したい」を確認している。利用者個々の担当スタッフを中心となり利用者から話を聞くことや「～したい」を定期的に確認できている。ケアプランに記載されている目標がスタッフ間で十分に共有されており、利用者個々の「～したい」目標と支援がかけ離れている場合がある。</p> <p>②本人を交えたカンファレンスの実施には取り組んでいるが、ご家族を交えてのカンファレンスについては、取り組んでいる方とそうでない方がいる。コロナの影響もあり、家族同士や地域の方を交えての交流企画までの立案ができなかった。</p>	<p>①自己評価の項目で「～したい」という部分の回答にもある、表現できる方には十分な対応をできているが、表現することが難しい方や希望が伝えにくい方への支援がつかみ切れていないということですか？</p> <p>→自分の気持ちや意見を表現しにくい方もおられます。そのような方にはご家族から情報を取らせてもらったり、その情報を参考に本人と話をし、その時の本人の表情や反応を確認しています。ただ、利用者全てに取り組んでいる状況には至っていない状況もあるため、どのように取り組んでいくかが今後の課題となっています。</p>	<p>①利用者一人ひとりの「～したい」ことを計画作成担当者や利用者個々の担当スタッフが中心となり定期的に確認し、プランに入れていく。その内容を支援時に意識できるように、毎日の申し送りの場面で確認する機会を作る。</p> <p>②家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を交えてのカンファレンスの開催 ・家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>地域の方など、誰でも気軽に立ち寄りたいたいと感じる環境づくり、雰囲気づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当職員を決め、その職員を中心に、職員間で話し合を持ち、外観や室内のしつらえの見直しやコンセプトを考え、それに応じたしつらえ、環境づくりを行う。 ・天候が良い時に利用者と一緒にテラスで過ごす、地域の方と一緒にお茶をする等、テラスが活用できている状況を作る。 ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。 ・不審者対策も併せて検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員を決めて取り組んだが、気軽に立ち寄れる工夫や玄関周りや室内のしつらえまでを話し合うことができなかった。ホーム周辺の整理整頓や掃除などは行っていた。 ・天候が良い時に利用者と一緒にテラスでお茶をしたり、過ごす時間を持てたが、コロナの影響もあり、地域の方を交えてという状況までには至っていない。 ・不審者対策の検討や話し合いは行えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開放感があり、入りやすい雰囲気はありました。テラスが活用されるようになったら更に入りやすくなると思います。 ・ホームの中に入ってしまうとアットホームな雰囲気を感じますが、入るまでの敷居が高いと感じます。施設ということがあると思います。地域の方も「こんにちは」と気軽に訪問できる雰囲気ではないと感じている方がいると思います。 ・敷居を低くしていくことも大切でしょうが、外から不審者等が入ってくるリスクも大丈夫かなと思います。 	<ol style="list-style-type: none"> ①地域の方が事業所を訪問できるように、事業所の中での企画の立案と地域の方への案内 ②訪問されている地域の方に事業所の入りやすさについて感想を聞く。地域で開催されているサロン等に参加されている方から事業所のイメージや入りやすさを聞いてみる。 ③事業所外周の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。 ④不審者対策として対策方法の共有や訓練を行う。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①地域の方との関わりが持てるように、地域の方に事業所のことや取り組んでいることを知ってもらう工夫、機会を作る。 ・より事業所の取り組みなどを知ってもらうために、通信の内容を充実させ、配布を継続していく。町内の回覧板も活用する。 ・法人ホームページを活用し、事業所の活動や取り組みを紹介する。 ②地域の方が気軽に相談できる場所となる。 ・民生委員の方と関係を作り、地域の情報交換を行う。 ・事業所で行っている「ものづくり活動」の時間を地域の方 	<ol style="list-style-type: none"> ①事業所の通信を町内の回覧板でお知らせすることができている。配布先にも定期的に配ることができており、配布先の方と顔なじみになっている。ホームページについては積極的に活用することができなかった。 ②地域の方への取り組みについては、顔なじみになるためのきっかけ作りが十分に行えず、関係性が持てていない。民生委員との協力体制も運営推進会議への案内と参加に留まっている。 	<p>《事業所通信について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知り合いや家族などが利用していれば意識して見ることはあると思いますが、そうでなければ新聞が入っているという確認だけで、中身まで見ずに流してしまうことがあります。 ・カラーなのでとても見やすいと思います。家族が入居されていない方でも手に取って見やすい工夫はされていると思います。 ・活動や企画しているなどの内容もよいと思いますが、一人暮らしの方などが見て、事業所で何ができるのかなどが載っているとよいのではと思います。サービスの契約をしていない方でもお弁当の宅配をしていることやお風呂の貸し出しができるなどが載っていると最初からできない 	<ol style="list-style-type: none"> ①事業所通信（やたの新聞）の内容の見直し、配布場所も検討する。 ・小規模多機能ホームやたのとして、地域の方にどのようなことができるのかを明確にして、やたの新聞に載せる、民生委員や運営推進会議参加者に伝える機会を作る。 ・矢田野地区の他の町（6町）にやたの新聞を配布し、事業所のことを知ってもらう。 ②地域の方が困ったことを気軽に相談してもらえるように、事業所の職員と地域の方が顔見知りになれることから始める。

	<p>との交流の場となるように、地域の方の声を参考に、参加しやすい場を作る。</p> <p>その場を活用し、地域の困りごとの確認や地域の情報を得ていく。</p>		<p>のではという考えを切り替えて相談しやすくなると思います。</p> <p>《民生委員さんとの関係について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢田野町に拘らず、6町にも発信して行ったほうがよいのではと思います。また、この会議にも他の町の民生委員が参加しても良いのではないか。 ・矢田野地区の民生委員の会議で配る協力ができます。 ・事業所として何ができるかが分かると民生委員としてつなげやすいです。 ・民生委員や町内の役員と連携していかないと町内は支えていけないと考えます。矢田野地区の民生委員や町内会長に挨拶するなど、顔つなぎは大事だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催しているサロンに職員と利用者が必ず参加する ・事業所通信(やたの新聞)を活用して「コーヒーでもお出しします。散歩の途中の休憩にどうぞ」などと事業所に気軽に来てもらえるような案内を行う。 ・ミニ地域ケア会議に職員が交代で参加する。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に参加し、地域の方との関係を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。 ・地域の行事等の情報を得て、参加していく。 <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加できる、社会資源を活用できる支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人との関わりの場面やカンファレンスの場面で軒下マップを持参し、得られた情報はすぐに軒下マップに記載していく。 ・一人ひとりの軒下マップを参考に、記載されている人や場所などの関係を知り、支援に 	<p>①事業所がある地域で行事の案内があれば、利用者と一緒に参加できている。またサロンの参加も継続して行えている。しかしそこに参加されている地域の方との関係までは作れていない。</p> <p>②利用者が希望されることを支援することはできている部分が多いですが、買い物など普段から地域に出るという部分や利用者個々の地域の行事などに参加する支援などに弱い部分があります。軒下マップを作り、利用されている方個々の社会資源や地域とのかかわりを知ることには努めていますが、情報を集めることが不十分で内容が薄いです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が行きたいところがあれば、声をかけてくれたり、付き添いしてくれたり協力してくれています。 ・利用者以外での地域の方で「心配がある」方などの情報はありますか？ <p>→まだそのような情報は持っていません。ホームの近所を歩いている方と交流させていただき、心配なことがあったら声をかけてくださいと伝えたり、いつもと違う様子の確認はしています。矢田野町全体に取り組んでいるまでの状況ではありません。そういう部分では民生委員さんと協力がうまくできていないということが理由としてあります。</p>	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に継続的に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。 ・地域の行事等の情報を得て、参加していく。 <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加できる、社会資源を活用できる支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人との関わりの場面やカンファレンスの場面で軒下マップを持参し、得られた情報はすぐに軒下マップに記載していく。 ・一人ひとりの軒下マップを参考に、記載されている人や場所などの関係を知り、支援につなげられることが

	つなげられることがないか 本人や家族と一緒に考える 時間を持つ。			ないか本人や家族と一緒に 考える時間を持つ。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	<p>①運営推進会議の開催が可能になった時は地域の情報や相談を丁寧に確認する。地域のことや事業所のことを一緒に考えてもらえる関係を作る。</p> <p>②地域の方と顔がつながるように、会議に職員が交代で参加する。職員全員が会議の中でどのようなことが話し合われたのか知ることができるように、議事録の回覧やミーティングで会議の内容を報告する。</p>	<p>①令和5年7月より運営推進会議を集合形式で行うことができている。地域の方や家族、小松市の方、高齢者総合相談センターの方、利用者本人などが参加し、意見交換ができている。</p> <p>②会議の中でどのようなことが話し合われているのかなどを知ってもらうために、職員が交代で参加することや会議の議事録を回覧することはできている。会議に意識して参加できるように、参加する職員には会議の中で役割を作っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議に参加して前向きに検討していることは感じます。 ・会議にたくさんの方が参加しており、会議の中で意見やアイデアが多く出て、それをやってみようかと前向きな話し合いができていると思います。 ・職員がたくさん出ていること、交代で出ていることが職員の質の向上につながってくると思います。また、会議に出て話を聞くことで地域ってどんなものなのか、その地域の課題が見えてくるのではないかと思います。職員がこの会議に交代で出て、勉強して、自分を磨いていき、人間力をつけていくのはすごく良いことだと感じています。 	<p>①運営推進会議の中で地域のことや地域の中で課題となっていること、見守りや支援が必要と感じる地域の方の情報交換などができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催しているサロン等に継続して参加し、参加者の状態の確認と情報収集する。 ・その状況から事前に民生委員と情報共有する。 <p>②継続して運営推進会議に職員が交代で参加し、その中で取り組みや意見が伝えられる環境を整える。</p>
F. 事業所の 防災・災害対策	<p>①スタッフの防災意識や災害発生時の対応力を高めることを目的に、実際に動ける訓練を定期的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災と災害の両方の訓練を実施する。 ・訓練とマニュアルが連動させ、動けるマニュアルを作成する。 <p>②地域の方に事業所のことやどのような利用者が利用されているのかを知っていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災士や校下の防災組織と災害について話し合う機会や訓練に参加してもらう機会を作る。 ・災害が発生した時に地域の困 	<p>①事業所として災害マニュアルはあるが、それが実践に即していないものとなっている。また、訓練も同じような設定での訓練となっており、今後より実践的な訓練を設定する必要がある。</p> <p>発電機が2台あるが、それを実際に動かす訓練なども十分に行っていないため、今後、正しく使用できるように使用訓練を実施していく。</p> <p>備蓄品の保管場所や保管方法、発電機使用時の決め事など、事業所としての課題がある。</p> <p>②令和5年度、防火管理者が矢田野地区の防災訓練に矢田野町の一員として参加することができた。</p> <p>ホームで実施した災害訓練に地域の方への案内はできておらず、お互い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震での生きた事例が集まってきたと思うので、それを参考に訓練したり、必要なものや体制を整えていくことも考えても良いのではないかと。 ・災害時の事業所の備えや設備などの情報はお互いに分かっていた方が良いと思います。お互いに頼り、頼られる関係性ができればと思います。 ・町内の防災の会合などに参加しませんか、情報交換しませんかという依頼があるかもしれません。 ・事業所の職員が防災士を取って、町内に還元するというのも一つのやり方ではと思います。市民救護員でも良いと思います。 	<p>①マニュアルと訓練を連動させていき、実践できるマニュアルに見直していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電機の使用訓練の実施、訓練設定を毎回、変えることでより実践に近い訓練を行う。 <p>②災害時等に事業所としての備えや設備を地域の方が分かっている状況を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所で行う訓練に地域の方の参加協力を依頼する。 ・町の防災士などと話し合える場を設ける。

	りごとを確認し、事業所として何ができるのかを検討する。	に分かっている関係を作るために今後、案内を行っていく。		
--	-----------------------------	-----------------------------	--	--